

AIの認識プロセス

事前学習・グラウンディング・認知度による情報処理の違い



人の動きと同じ情報処理プロセス

AIは「知っていること（事前学習）」は記憶から答え、「知らないこと・最新のこと」はその場で検索（リアルタイム）して補完します。エンティティ（対象）の認知度や情報の鮮度要求によって、この使い分けが変化すると推測されます。

AIの回答プロセス（予測）

事前学習 = 暗記

事前学習（一般知識）: 一般的な言葉の意味、文脈理解、世界的な有名スポット
Maps固有の事前学習: 地図データ、住所、カテゴリ、基本的な店舗情報

グラウンディング = カンペ

リアルタイムユーザー行動: 「今」の混雑状況、最新クチコミ、現在の営業状態、イベント
公式Webサイトなどでのファクトチェック: 正確な情報の確認、詳細なスペック、公式発表

※**グラウンディング**とは、暗記に頼らず、カンペ（根拠）を見て答える誠実な仕組みのことです。難しくいうと、事前学習からだけでなく、特定の知識源（WebサイトやLLMにアップロードしたPDF、事前に接続してある各種情報リソースなど）を確認してから、そこに基づいて回答を生成させること。嘘（ハルシネーション）を抑えるために大切な仕組み。

エンティティ認知度による使い分け

A. 「車について教えて」

一般概念

→ ほぼ事前学習のみで回答

B. 「プリウスについて教えて」

有名エンティティ

→ 事前学習(80%) + 公式HP確認(20%)

C. 「〇〇店の今の混雑状況は？」

ローカル / リアルタイム

→ リアルタイムデータ & 検索が必須

事前学習では答えられないため、最新情報がないと回答精度が著しく下がる領域

Data Sources (Google Official)

Google 検索によるグラウンディング

<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/google-search?hl=ja>

Vertex AI での Google マップを使用したグラウンディング

<https://docs.cloud.google.com/vertex-ai/generative-ai/docs/grounding/grounding-with-google-maps?hl=ja>